

基礎心理学入門・心理学 101

第11回 言語

上村卓也

2016年7月6日

連絡

成績評価

~~前期試験 100%~~



期末レポート 100%

形式

- Course Power経由
- 最終回の授業(7月20日)またはその翌日に出題
- Course Powerに課題を公開するので、Course Power上で提出する
- 提出期限は8月3日くらい?(未定)

言語の特徴

- 事物・事象を記号で表す
- 要素を組み合わせて用いる
- 学習によって獲得される
- 個人内・個人間で用いられる
- など

事物・事象の代表化

表すもの(能記)	表されるもの(所記)
ネコ	
	晴れ・曇り・雷
信号機	
	止まれ(という概念)

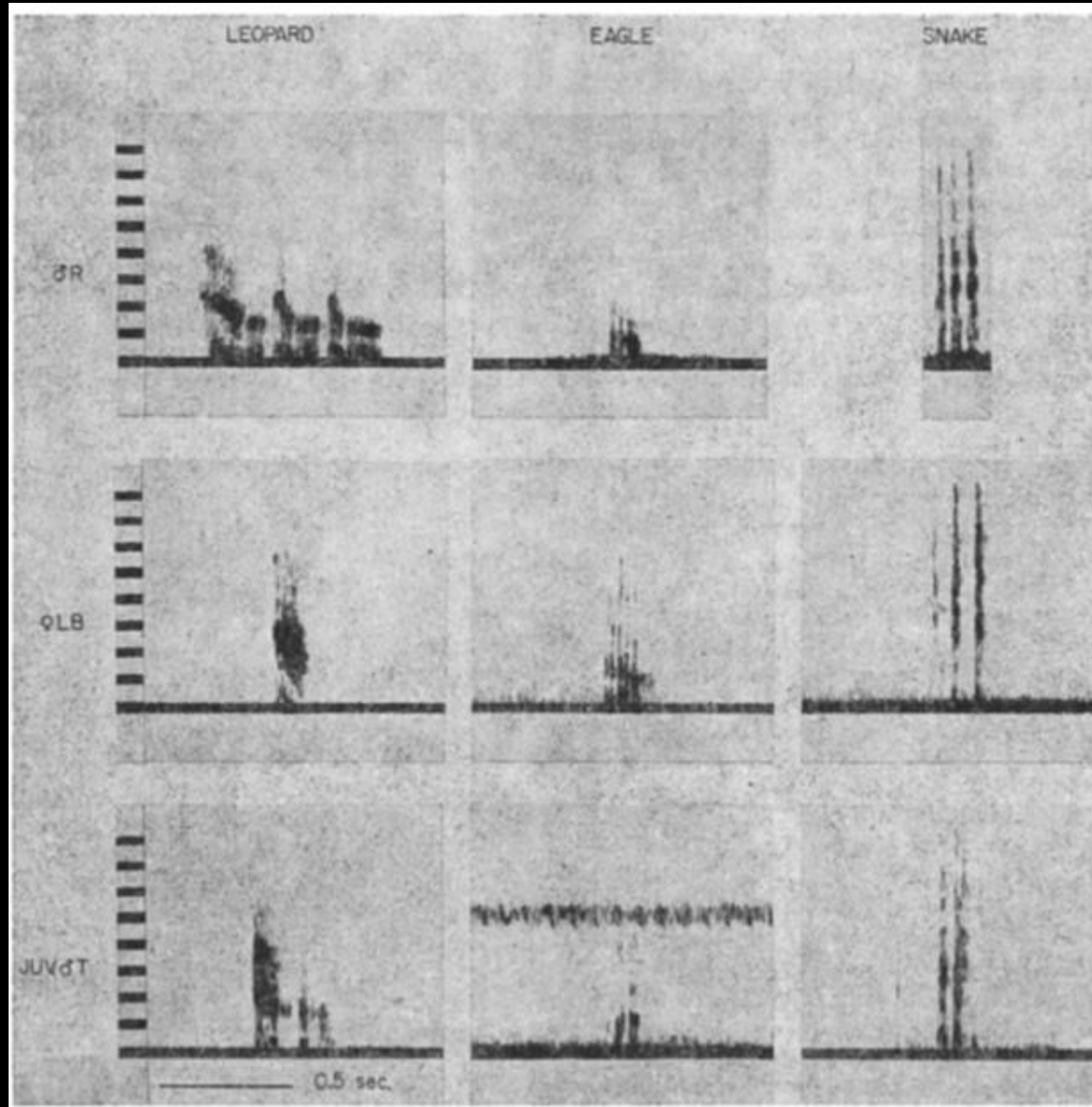
所記と能記の関係

個人ごとに異なる
個人間で共通
社会的に決まる

事物・事象の代表化

ヒト以外の例

vervet monkey



Seyfarth et al., 1980

学習による言語の獲得

学習によって獲得される、言語に関する能力

- 意味と記号の関係
- 文法
- 音声
- など

音声の学習(発声学習)

発声学習ができる種:

- 哺乳類: ヒト・鯨類・コウモリ・海獣類(?)・象(?)
- 鳥類: オウム目・ハチドリ目・スズメ目

サル・類人猿はヒトに近い?

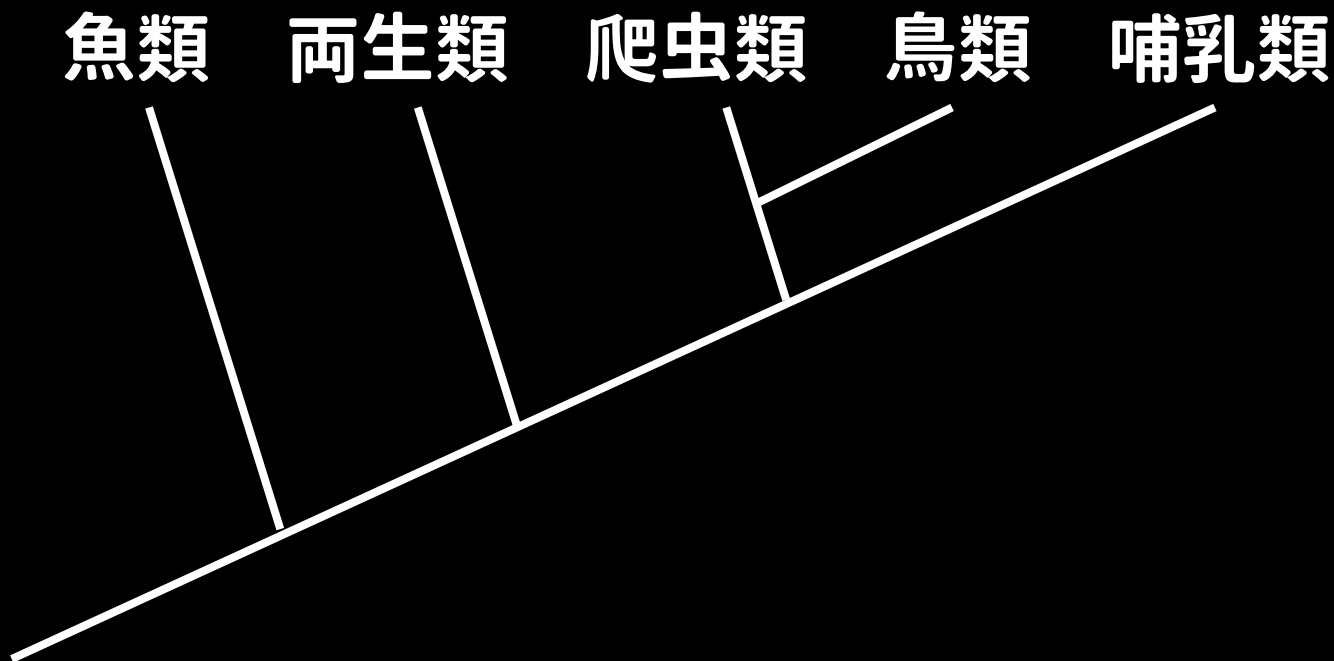
発声学習に関しては、上記の種のほうがヒトに近い

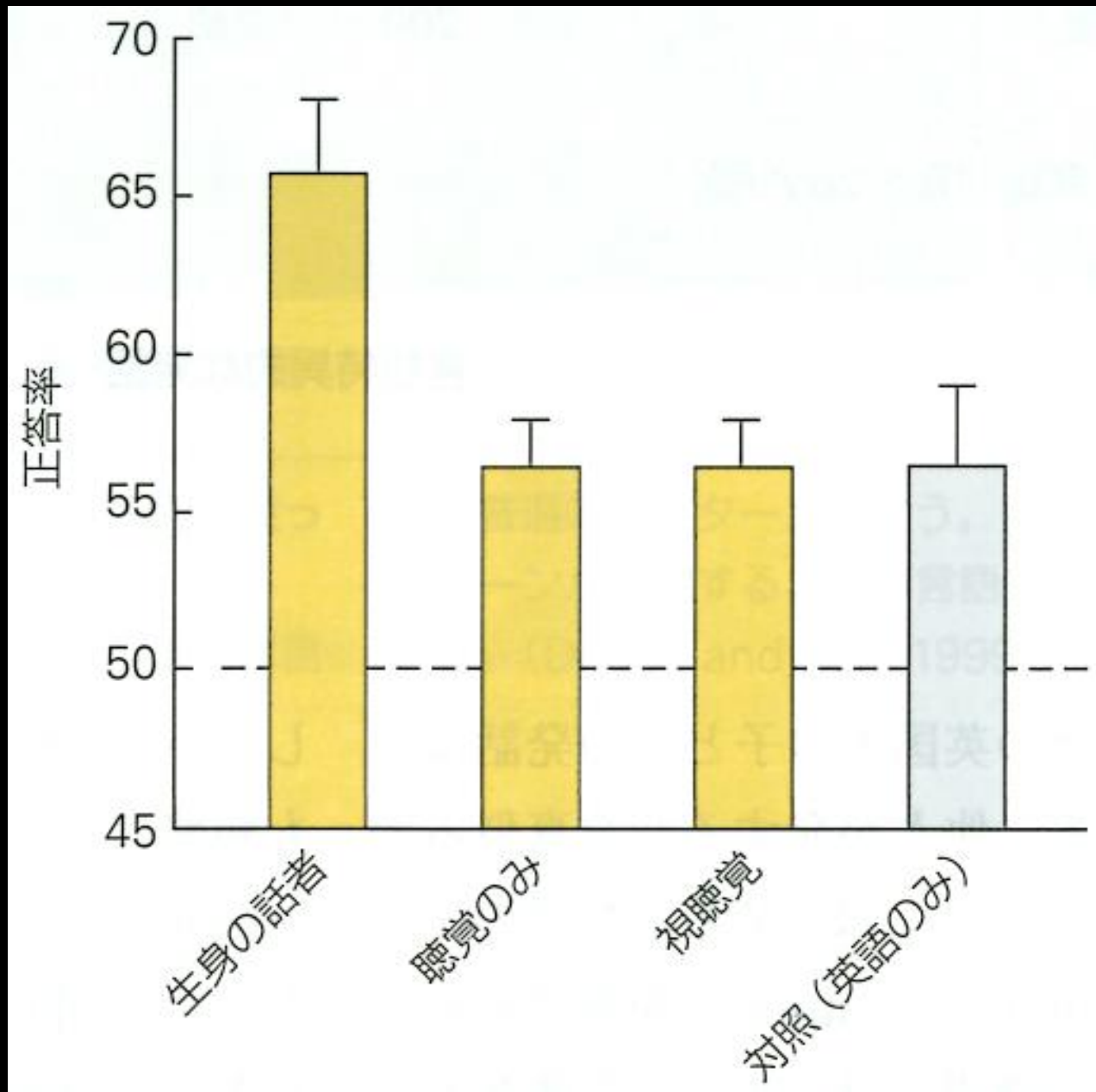
発声学習の性質

- 自身の発声を聴いて練習する
- 収斂進化?
- 社会的相互作用が必要

収斂進化

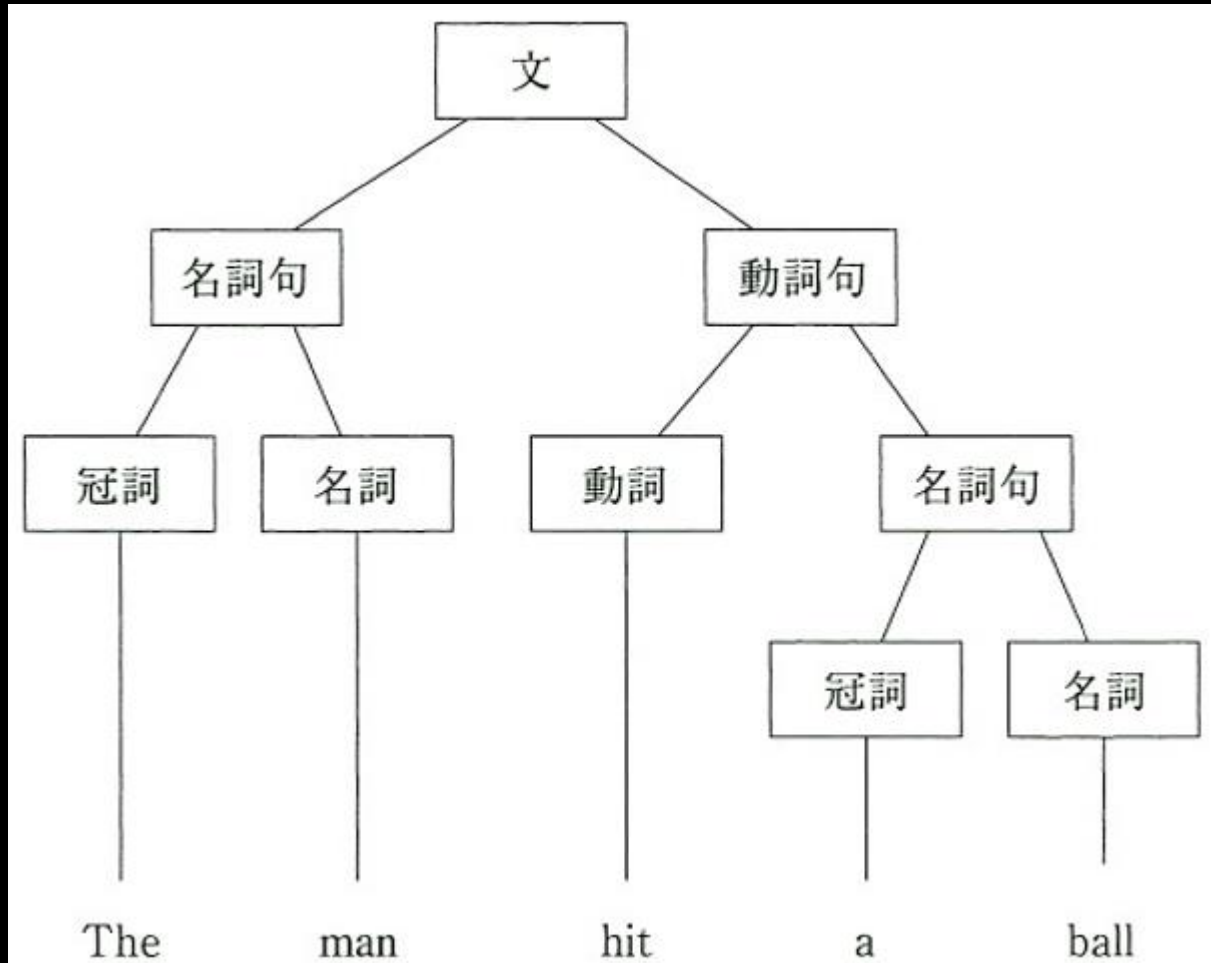
複数の生物種で、類似した形質が個別に進化すること
共通の祖先はその形質を持たない





要素の組み合わせ

単語の組み合わせ→文



階層構造

図-/5-28

文字の組み合わせ→単語

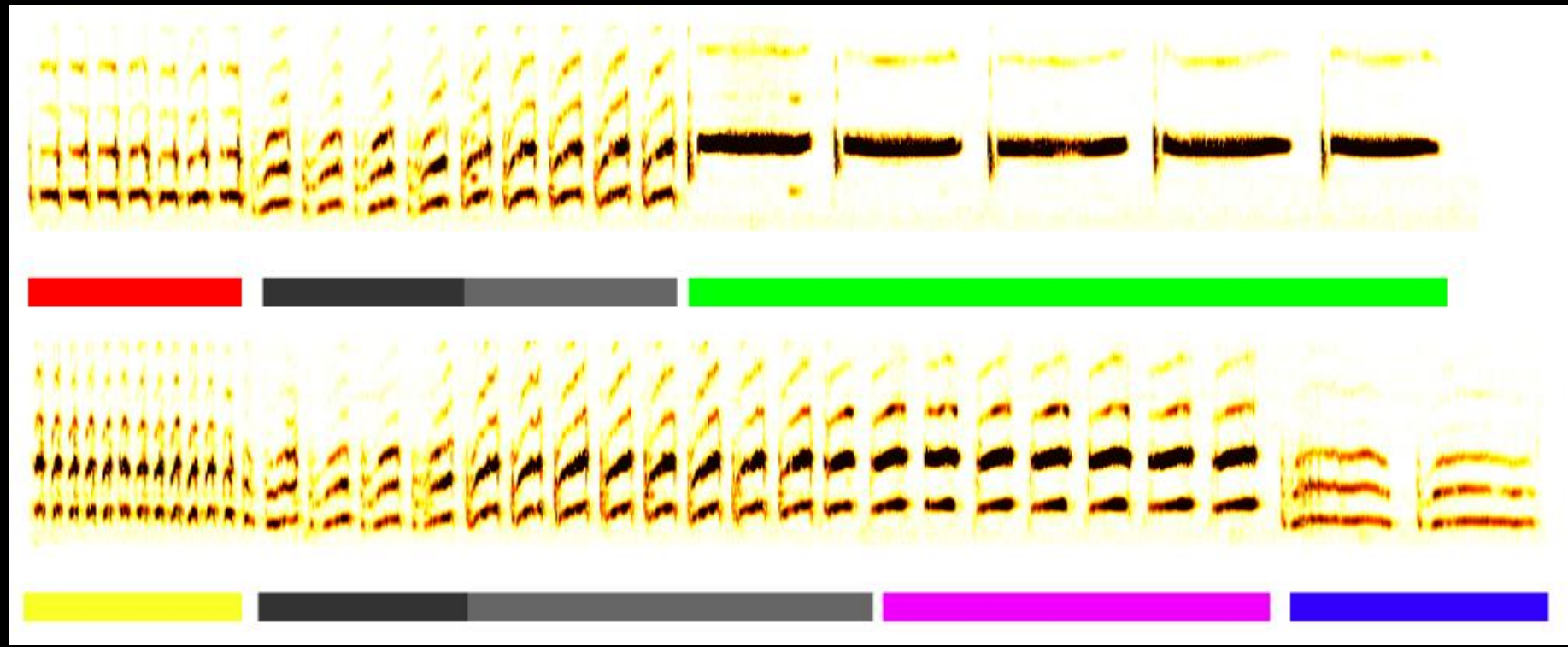
ネ+コ = ネコ

要素の組み合わせ

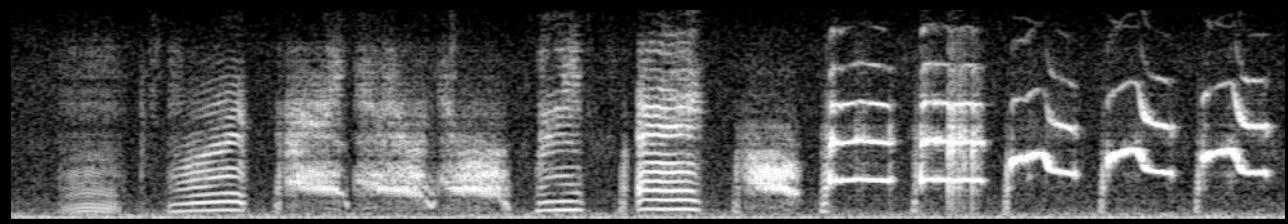
鳥類の例

カナリアの歌

Markowitz et al., 2013



ジュウシマツの歌



10 kHz
200 ms

A B C C C B D C E E F F F

外言・内言

外言→個体間

内言→個体内

外言 → 親しい個体間での外言 → 内言

少ない → 多い

省略

内言→言語的思考・自己制御

言語の神経機構

言語機能→大脳皮質の広範囲な領域が関わっている

特によく知られている領域

- ・ ブローカ中枢 → 発話の生成・運動指令
- ・ ウェルニケ中枢 → 発話の知覚・理解

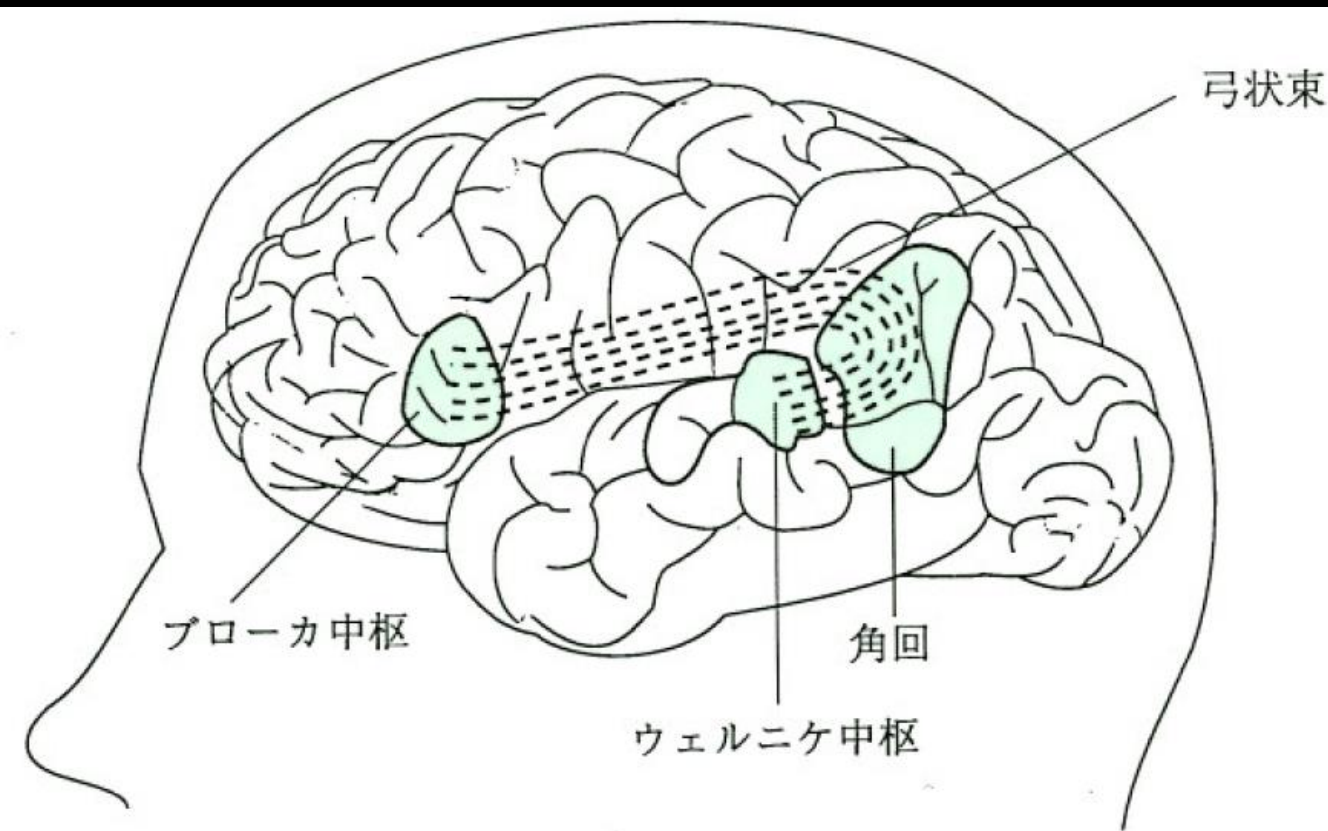


図7-27/7-26

言語の進化

三訂版「言語は、人間が自分の意図や考えを相手に伝えるべく、あるいはコミュニケーションをするべく進化し、発達してきた」

- 人間が自分の意図や考えを相手に伝える機能がある
- コミュニケーションの機能がある

言語の進化

- 言語が無い状態→言語がある状態
↓
- 言語が生まれてから、現在のような形になる